

日本国際秘書学会 東日本支部研究会 活動報告

日時：2023年8月19日（土）

場所：Zoom オンライン

内容：基調講演「ビジネススキルと働き方:40年間の会社員経験を振り返って」

Yamaha Labo 代表 山葉 隆久 氏

2022年度の東日本支部研究会では、Yamaha Labo 代表 山葉 隆久 氏をお招きし、基調講演「ビジネススキルと働き方:40年間の会社員経験を振り返って」を開催した。

講演内容は、ポータブルスキルとして、「どこでも使えるビジネススキル」について氏の経験を交えて以下のように提示した。（講演資料「20230819 JAISS 支部研究会講演_山葉」より抜粋）

1. 思考法：どうすればできるかを考える。どうにもならない事に悩まない
2. 優先順位付け：緊急な仕事の対応に追われるか、緊急な仕事を減らしているか
3. 計画の立て方：緻密な計画を立ててから実行か、ラフな計画でまず実行か
4. 2-5-8 則：納期直前に着手するか、まず着手するか
5. 報連相：会議室は要らない。面と向かって話しているか
6. そもそも会議が必要か：定例会議が多いか少ないか
7. 会議は次にすることを決める場：現状共有で終わるか次にすることを決めているか
8. リーダーシップ：リーダーだけでなくメンバー全員が発揮しているか
9. 仕事の総量を減らす：やらなくて良い仕事を続けているか、止めている

これらが在籍した7社で実行したスキルで、生産性が高まると感じたものであった。

氏は職歴とライフカーブを作成し、サラリーマン時代の人生充実度を可視化したが、これまでキャリアデザインをしたことがなかったことに気がついた。転職についても、さほど計画性はなかった。

現在は、ミドル層の働く意欲の低下が非常に気になる。この世代の働く意欲が高まれば、労働者不足も解消するのではないか。就業率を見ると、60から65歳の働く人は確実に増えている。しかし会社側は再雇用の労働力を期待していない。再雇用制度で賃金が安くなることについては、受け容れざるを得ないと、ラジアーの契約の理論を用いて説明した。

雇われない働き方をするのも有意義だと考える。問題は、業務委託をしてくれる会社があるかどうかだ。最近ではエージェントがいるので、それを試すのも1つである。雇われない働き方の視野を広めることも大切ではないだろうか。さらに定年後をどのように生きるかは、学び続けることが大切であると考えている。

以上のような幅広い内容の講演であり、有意義な支部研究会となった。

以上
作成 周藤